



ごあいさつ

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



同窓生の皆様、ご無沙汰しております。一年ぶりの寄稿に頭を悩ませている次第です。

今回も自分なりに感じたこと、お願いごとを書かせていただき、ますので、少しの間お付き合い下さい。

まずは、日頃、同窓会活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

総会開催がない年度は年に二

〜三回程の役員会を開き校長先生や同窓生教職員の方から学校の状況などを聞かせていただいています。

同窓会の主な活動は、在校支援と同窓会運営であります。在校支援は特に部活動の東北大会や全国大会出場に対して多少でもお役に立てる激励金をお渡ししています。

体育会系だけでなく文化系の部活動に関しても同様です。毎年多くの在校生が活躍する姿を感じることができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。

まさに文武両道を実践している姿です。

そして二〇一八年二月は二年

発行
福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21
 (024)531-1551
 発行人 金子 與志人 人生高等学校局
 題字 三浦賢一 東高等事務
 編集 福島同窓会 妻 印
 印刷 吾

に一回開催している同窓会総会の時です。毎年多くの恩師、校長先生、教頭先生、同窓生教職員、そして同窓生の参加をいただいています。ありがとうございます。

五十代から十代までの同窓生が参加し短い時間ですが交友を深め、近い年代の先輩や後輩または同級生と昔話で盛り上がっています。私は、今だに当時の恩師から学生当時のお叱りをいただいています(笑)

一人一人の生活が異なりそれぞれの時を過している日々ですが、この時ばかりはお互い共鳴し合いタイムスリップしているかの様です。そんなひと時を楽しみに同窓会総会当日を待っています。

毎年多くの方にご参加いただいています卒業生の数から言

うともっと多くの同窓生に出席していただきたくお願い申し上げます。

福島県立福島東高等学校は一九八〇年に産声をあげました。創立四十周年へはすでにカウンタダウンが始まったと言っても過言ではありません。まさに東京オリンピック・パラリンピックの年と同じであります。

この創立四十周年を盛り上げて次の周年である半世紀へバトンをつなぐのは私たち同窓生の役目です。どうぞご理解いただきお力を貸していただけれます様よろしく願います。

そう言う訳で、今回の総会は四十周年直前の会になります。同窓会役員会としてどんな催しをしたらいいか今後校長先生始め関係各所と相談して参りますが、その前に同窓生皆さんのご意見を聞き参考にさせていただきますと思います。多くの方の総会出席を切に願っています。

最後に同窓会活動をご理解いただき支えて下さっている校長先生始めとする教職員の皆様と



総会のお知らせ

【日時】 2月10日(土)
 同窓会総会 17:00~
 懇親会 18:00~
 【場所】 ウエディング エルティ
 【出席締切】 1月26日(金)
 【懇親会費】 5,000円
 学生 3,000円

事務局として運営全般を行っていただいている同窓生教職員の皆様に感謝申し上げます。今後皆様にお世話になりながら同窓会発展に務めます。では総会当日に会場でお会い出来ますこと楽しみにしております。

「主体的に、やり抜く力が育つ学校をめざして」

福島東高等学校長 吉田豊彦



福島東高等学校同窓会会報第十四号の発行、おめでとうございます。同窓会の金子與志人会長はじめ、同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動全般に対して物心両面で大きなご支援をいただいています。心より御礼申し上げます。

平成二十八年度末の卒業生総数は一一、八八五名となり、地域の経済、行政、教育等のさまざまな分野でご活躍です。

同窓会からは、吹奏楽部と合唱部の定期演奏会、ダンス部のLIVE、美術部の展覧会「桜美展」に補助をいただき、また、全国大会に出場する生徒に対しても、平成二十八年度は美術部と弓道部が、平成二十九年度はテニス部、弓道部、放送委員会が激励金をいただいております。体育施設や公開文化祭の後援等、ご支援は多岐に渡っております。福島市役所に勤務する同窓生の皆様はじめ、多くの同窓生の皆様が「東高応援基金」

に協力してくださっています。太鼓（応援団）やグラウンド整備用車両の提供等もありました。本校の教育活動が円滑に行われるのもこれらのご支援があつてこそです。人的にも、例えば「さまざまな職業人に聞く」においては、今年度（十月二十四日

（火）実施）は三期生から二十七日生までの七名の先輩方が、自らの仕事や働くことの意味を熱く語ってくださいました。職業も、教育（高等学校）、医療、行政（農政、福祉）、電力、大学職員と多岐に渡っており、先輩方の多様な活躍は、後輩のキャリア形成に大いに役立っております。

平成二十九年度、本校は、第三十六・三十七・三十八期生、八百三十三名（男子五百十名六一・二%、女子三百二十三名三八・八%）、教職員総数六十五名でスタートしました。本校開設期に「どの高校よりも生徒一人ひとりを大事にします。」と生徒募集に当たった先輩教職員の地域への約束は、学習指導・受験指導及び部活動等の両面に引き継がれております。

学習活動においては、引き続き、四十五分七校時を骨格とする教育課程を組み、入学当初からのきめ細かな学習指導、大学

入試を突破するために必要十分な質・量の課外学習を行い、すべての教員が三年生の進路実現のために個別指導を徹底しております。今後とも、大学入学後も生きる力の育成に努めつつ、現役国立大学合格者数にこだわる姿勢を維持・発展させながら、本校の教育を一層充実させてゆく所存です。

部活動においては、今年度は、テニス部（男子シングルス）、弓道部（男子団体）、放送委員会が全国大会出場の花冠を射止め、ソフトボール部員は県選抜国体選手として活躍しました。東北大会には、サッカー部、陸上競技部（男子駅伝を含む）、ハンドボール部、水泳部、合唱部等が進出しています。野球部も春季大会でベスト四に進出するなど、団体競技は押しなべてレベルの高い戦いをしており、個人種目でも良い成績を取っています。

学校行事では、春の福島高校との野球定期戦「桜梅戦」は、新入生が東高生であることを実感する最初の瞬間です。マラソン大会も健在で、教職員も共に十km、七kmを走破しています。夏・冬二度の球技大会、三年に一度公開され、非公開の年も全クラスが舞台作品を披露する「東桜祭」など、全力で行事に取り組み本校生の姿は、上級生から下級生に確実に引き継がれております。

平成二十八年七月には、三年間に渡って行われた本校舎大規模改修工事が終了し、平成二十

九年度は、第二体育館の照明のLED化工事はあったものの、すべての施設をフル活用しています。平成三十一年度には、南校舎・渡り廊下の大規模改造工事が予定されております。

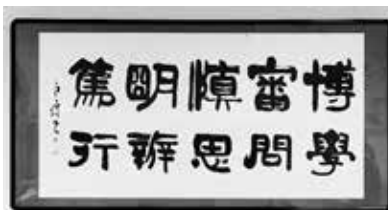
平成三十年、本校には、第三十九期生二百八十名が入学します。「生徒一人ひとりを大事にする」姿勢を様々な実務において一層具体的に、次期学習指導要領や高大接続改革等に対応するための準備を進めてまいります。

「文武両道」を標榜する学校は数多くあります。しかしながら、本校の学習指導、部活動指導の水準は、全体として高いレベルを維持しており、充実した課外活動と日々の学びを両立させることで、生徒には、「物事をやり抜く力」が確実に育っているのではないかと考える今日この頃です。

今年度七月に発行された『福島東高新聞』の突撃☆先生インタビューで、私は、「（東高生は）今のままでいい」と答えました。文武両面で真摯に学校生活を送っている生徒諸君は、今のままでいいと心から思っています。それでもなお、敢えて求めるならば、「自らが問いを立てること」を心掛けてほしい。授業中にもとより、生徒会活動・部活動において、家庭において、どういう方向で社会に貢献するか。変化の激しい予測不可能な未来において、その目標は変わってよいから、それでもなお、

今現在の、そのような問いを踏まえて、第一志望の大学目指して、勉学に集中してほしい。

生徒諸君一人一人がそのような問いを立てることで、東高は一層輝かしく前進してゆくことができる、と考えております。この方向は、主体的に考えて行動し実践する生徒の育成と問い換えてもよいでしょう。



文武を両立させている本校生は、相変わらずとても忙しい。そのような本校生の状況を語った生徒会誌『まほろば』第三十六号の編集後記のことばを、今年も紹介します。

…そんな東高生だからこそ忍耐強かったり、努力を怠らなかつたり、他人を思いやれる人が多いのだと思います。高校に入って真っ先に思ったのが「意味のないざこざがない」ことでした。皆強い志を持っていて一緒にいて心持の良い人達ばかりです。…

教職員一同、このような生徒のために、これからも全力を傾注してまいります。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]

第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会員]

第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役員]

第5条 本会に次の役員をおく。

- 1. 会長 1名
2. 副会長 4名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名

第6条 役員は次のとおりとする。

- 1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員は次のとおりとする。

- 1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。

第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]

第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に依る。

[総会]

第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。

- 1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。

第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]

第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。

第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]

第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。

第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会計]

第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。

第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成28年度 歳入歳出決算書

Table with 2 columns: 歳入金額, 歳出金額, 差引残額. Values: 4,418,614円, 3,521,731円, 896,883円

1. 歳入 ▲は減少 単位:円

Table with 5 columns: 項目, 28年度予算額, 28年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, etc.

2. 歳出

Table with 5 columns: 項目(科目), 28年度予算額, 28年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, etc.

* 項目科目間の流用を認める。

平成29年度 歳入歳出予算書(案)

Table with 2 columns: 歳入金額, 歳出金額, 差引残額. Values: 5,073,000円, 5,073,000円, 0円

1. 歳入 ▲は減少 単位:円

Table with 5 columns: 項目, 29年度予算額, 28年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, etc.

2. 歳出

Table with 5 columns: 項目(科目), 29年度予算額, 28年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, etc.

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」 協賛者名

(敬称略)

※()は卒業期、()は旧姓
○「東高応援基金」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていければ、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。
なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

- 則(1)岡田(安齋)正孝(1)久能靖(1)笹木毅(1)田村健(1)阿部真人(2)目黒幹治(2)遠藤勝利(2)六戸英樹(2)高橋治彦(2)渡辺武浩(2)小野浩樹(2)六戸佐寿(2)山口栄治(2)安藤武仁(3)西條正美(3)高根功幸(3)小林雄(3)寺島健吾(3)佐藤智彦(3)尾形典良(3)鈴木友彦(3)佐久間真二(3)金子與志人(3)齋藤孝一(3)齋藤仁久(3)大内則和(3)蒲倉達也(3)紺野信幸(3)佐藤和生(3)山田昌信(3)服部信弘(3)森進一(3)紺野勝弘(3)泉田太郎(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)丹治仁(4)佐々木正則(4)峯智和(4)吉川裕(4)上原子祐司(4)佐藤真一(4)氏家祥市(4)高橋秀明(4)橋本一弘(5)室井克典(5)永澤憲一(5)尾形隆(5)鈴木秀行(5)三宅一秀(5)富樫隆男(5)小野友史(5)齋藤(古閑)徹(5)上川高志(5)菅田勝彦(5)高橋俊一(5)小竹智行(5)立谷保(5)手塚健一(5)作山稔樹(5)佐藤忠之(5)青木康博(5)伊藤隆(5)緑上淳一(5)渡辺裕哉(5)菅野晃弘(5)桂山洋幸(6)小熊弘人(6)高橋城士(6)山川毅(6)安東隆司(6)佐々木光洋(6)鈴木一義(6)佐々木崇(7)松本琢也(7)菅野国雄(7)阿曾一寛(7)中村(半澤)孝雄(7)山岸竜大(7)六戸敢一(7)渡部泰史(7)佐藤俊彦(7)安田成一(8)小林孝雄(8)江川(菅野)洋之(8)安齋晃(8)阿部貞昭(8)石原英明(8)関克典(8)齋藤晃一(8)佐藤純一(8)後藤正治(9)齋藤嘉紀(9)菅野巧(9)大槻進也(9)大友彰(9)佐藤浩規(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)高橋英樹(10)加藤

- 剛(10)宮口剛(10)内山雄史(10)遠藤司(10)石井哲司(10)熊本康(10)加藤芳史(10)田中信次(10)渡辺剛智(10)熊坂隆行(10)高橋誠(10)野口幸哉(10)柴田進也(11)服部慎司(11)吉田俊一(12)白川真(12)猿田秀和(12)穂苅康介(12)菊地輝臣(12)田村高弘(12)齋藤讓(12)阿部友弘(12)川勝庸史(13)齋藤弘樹(13)渡邊勝巳(13)石川亨(13)菅野浩史(13)紺野真人(14)木幡健一(14)廣野功二郎(14)高橋剛(14)伊藤規義(14)丹治剛俊(14)中村充浩(14)佐藤光太郎(15)舟山恵介(15)菅野元樹(15)渡邊繁(15)齋藤訓朗(15)守山直樹(15)津田智美(16)村木貴紀(16)遠藤やよい(16)橋本真(16)古閑康宏(16)三浦佑一郎(17)上杉光成(17)大葉(尾形)真希(17)土屋映梨(17)齋藤貴裕(18)谷内雅一(18)川崎布美子(18)水野裕史(18)川村清人(18)木内(佐瀬)智紀(18)野口(大槻)雪乃(18)八木沢奨(18)菊田大樹(18)齋藤和明(18)佐藤(鹿野)由里子(19)石澤亜由美(19)鈴木大作(19)片平美代子(19)渡邊祝子(19)浅川吉和(19)佐藤翔太(19)古山由佳(20)櫻田貴志(20)石幡乾彰(20)二瓶真人(20)阿部真治(20)齋藤広彰(21)松本高志(21)佐藤和美(21)伊達孝浩(21)齋藤元(21)佐藤宏樹(22)塩谷卓也(22)渡辺将人(22)竹内大崇(22)阿部健治(22)尾形慶(22)鳥居広基(23)和田(古積)かおる(23)水口秀一(23)高橋政哉(23)宮崎友哉(23)山内雄太(24)渡辺俊介(24)見城藍(24)菅野数宙(24)阿部兼太郎(24)薄井智之(24)菅野峻介(24)藤森良仁(24)大西直子(25)宮本

平成29年度在校生支援事業

- 定期演奏会・発表会補助
 - ・吹奏楽部
 - 第34回定期演奏会 50,000円
 - ・合唱部
 - 第15回定期演奏会 50,000円
 - ・ダンス部
 - 第11回定期発表会 20,000円
- 全国大会出場への激励金
 - ・弓道部 180,000円
 - ・テニス部 30,000円
 - ・放送委員会 30,000円
- 体育設備支援
 - ・グラウンド整備用備品 79,244円

- 圭太(25)大橋拓期(25)石田(本田)紀子(25)齋藤大地(25)三浦ゆかり(26)千代間祥之(26)伊藤奏(26)舟山貴之(26)菅藤脩平(26)松浦由樹(27)綿引香(27)穂積真人(27)古山彩佳(27)佐藤芳哉(27)丹野善久(27)塩谷昌之(27)丹治寛佳(27)関川崇(28)大和田善愛(28)五十嵐絵里(28)岩瀬里実(28)本田航(28)渡邊ちひろ(28)薄健介(29)西條琢磨(29)山田実穂(29)加藤真弓(29)安齋嘉章(29)尾形茉帆(29)門馬弘孟(29)桑久保陽介(29)宗像麻衣(29)菅藤雄介(29)佐藤匠(29)眞島慧(29)油井綾(30)宮田凌佑(30)菅野良太(30)萩原夏美(30)窪田紗羅(30)齋藤孝稀(30)鈴木将稀(31)高橋史弥(31)豊田大智(31)大貫秀人(31)菅野友美(31)見城航(31)渡邊翔(31)永野拓海(31)吉田友和(31)加藤貴子(31)丸島涼(31)渡邊信孝(31)三浦凌(31)佐藤慧(32)鈴木美結(32)山岸勇士郎(32)福富亮(32)金子耕也(32)安齋拓真(32)安田稔里(32)守岡大吾(32)安齋由貴(32)橋内千紘(32)油井真理絵(32)梶田光里(32)赤間大樹(33)丹治航(33)半杭

佑基(33)齋藤真生(33)湯田匠(33)門馬琢朗(33)伊藤賢也(33)鏡拓也(33)窪田龍一(33)関根優介(33)高橋佑太(33)羽田優花(33)鈴木大貴(34)浦住颯馬(34)佐原良(34)齋藤慎悟(34)熊谷泰樹(34)福富果歩(34)菅野裕日子(34)塩澤裕理(34)福田正樹(34)小川雄大(34)藍原賢太(34)上原子祐(34)菅野修磨(34)服部明理(34)大和田優輝(34)渡辺彩水(34)

◎ 平成二十九年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

旧職員 佐藤恵治、鈴木浩一、本多光弥、佐藤英嗣

(表1) 年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9	9	9	9
卒業者数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)	(423)	(431)	(421)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88	109	96
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278	291	333

卒業年度	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年
学級数	9	9	8	8	9	9	9	9	9	9	8	8
卒業者数	(408)	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)	(362)	(350)	(358)	(359)	(314)	(316)
国公立大	109	85	109	113	114	145	150	115	165	153	154	171
私立大	299	418	413	327	313	311	346	349	247	248	305	322

卒業年度	25期 H18年	26期 H19年	27期 H20年	28期 H21年	29期 H22年	30期 H23年	31期 H24年	32期 H25年	33期 H26年	34期 H27年	35期 H28年
学級数	8	8	8	8	8	8	8	7	8	7	7
卒業者数	(318)	(313)	(310)	(307)	(316)	(311)	(315)	(281)	(312)	(275)	(274)
国公立大	126	139	165	115	134	139	109	94	102	90	100
私立大	329	351	240	284	265	373	319	334	438	390	362

(表2) 大学別合格者数 (平成28・27・26年度入試)

大学名	平成28年度生	平成27年度生	平成26年度生
北見工業大	2	0	0
室蘭工業大	2	0	0
弘前大	0	1	3
岩手大	1	1	1
東北大	4	2	1
宮城教育大	1	0	1
秋田大	0	1	1
山形大	11	10	8
福島大	27	35	36
茨城大	4	5	8
筑波大	3	1	1
宇都宮大	4	1	4
群馬大	0	1	0
埼玉大	1	5	1
千葉大	0	0	1
東京学芸大	0	1	0
東京農工大	0	0	1
一橋大	0	0	1
新潟大	9	4	11
上越教育大	1	0	0
静岡大	0	1	1
名古屋大	0	0	1
長崎大	0	1	0
釧路公立大	0	1	0
青森公立大	0	0	1
岩手県立大	2	0	0
宮城大	0	2	4
秋田県立大	6	1	0
山形県立保健医療大	1	1	0
米沢栄養大	0	0	1
会津大	2	1	1
福島県立医大(看)	4	1	3
前橋工科大	1	0	0
群馬県立女子大	2	1	1
高崎経済大	2	5	3
千葉保健医療大	1	0	0
新潟県立大	4	1	1
新潟県立看護大	1	0	0
長岡造形大	0	1	1
都留文科大	0	1	2
長野大	3		
鳥取環境大	0	1	0
名桜大	1	3	0
その他	0	0	3
計	100	90	102

大学名	平成28年度生	平成27年度生	平成26年度生
仙台大	3	8	3
東北学院大	29	38	69
東北福祉大	57	40	30
東北医薬科大	3	2	6
宮城学院女子大	8	10	19
東北芸術工科大	2	0	1
国際医療福祉大	6	9	17
白鴎大	15	17	22
獨協大	8	2	0
文教大	12	8	4
女子栄養大	2	2	0
神田外語大	1	4	0
淑徳大	4	2	1
青山学院大	1	0	1
北里大	0	3	0
慶應大	0	0	1
駒澤大	5	9	1
芝浦工業大	1	2	5
上智大	0	0	1
成蹊大	2	0	0
成城大	2	2	2
専修大	8	7	15
大東文化大	2	3	12
玉川大	2	4	0
中央大	3	4	6
帝京大	3	2	3
東海	13	11	3
東京工科大	4	3	5
東京農業大	3	0	12
東京理科大	0	1	1
東洋大	13	16	6
日本大	32	40	24
日本社会事業大	1	1	0
法政大	4	6	2
明治大	2	3	4
明治学院大	0	0	1
立教大	0	1	0
早稲田大	2	1	0
神奈川大	23	11	12
関東学院大	3	4	2
新潟医療福祉大	4	4	2
同志社大	2	1	2
立命館大	3	4	0
その他	74	105	143
計	362	390	438

進路



進路指導部主任
松本 重明

まず二〇一七年全国の入試動向について説明します。センター試験においては、九〇〇点満点の平均点では文系型が昨年度と比べプラス九点(五六七点)、同じく理系型がマイナス二

点(五七一点)となった。教科別の平均点においては生物基礎が過去最高となった(平均点三九・四七点、得点率七九・八%)が、国語は昨年度に比べ大幅にダウン(平均点一〇六・九六点、得点率五三・五%)した。志願者数については国公立大学全体では昨年並みで

現役大学等進学率…35期 平成28年度生 (86.5%)、34期 平成27年度生 (80.7%)、33期 平成26年度生 (83.7%)

あるものの、内訳を見ると昨年
に比べ理系学科の志願者数が減
少したのに対し、文系学科の志
願者数増加が目立った。一方で
私立大学は、特待生入試（授業
料免除）やネット出願といった
受験生や保護者の負担を軽減す
る大学の増加により、志願者数
が増加した。しかし、私立大学
は入学定員超過による補助金の
不交付の基準を厳しくしたこと
により合格者数は逆に減少し、
特に志願者が多い大都市圏の難
関大学は例年以上に狭き門と
なった。

推薦・AO入試については、
国公立大学協会で推薦・AO入
試の募集人員を三〇%とする目
標が掲げられたことを受けて昨
年度に比べ募集人員が増加して
いる。

本校現役生の進路状況につい
ては、国公立大学合格者が昨年
度より十名増加し、七クラス体
制になって初めて一〇〇名に到
達した。合格者一〇〇名のうち
推薦・AO入試の合格者は二十
名と昨年より十名増加というこ
とで、ここでの増加が国公立大
学合格者の増加につながってい
る。また合格者の文系・理系の
内訳については文系が四十九
名、理系が五十一名となってい
る。文系の四クラスに対して理
系が三クラスであるため、理系
はかなり善戦したものと見え
る。一方、文系に関しては最も

志願者が多い福島大学の経済経
営学類、行政政策学類の志願者
数が昨年と比べ大幅に増加した
ことでのかなりの苦戦となり、福
島大学合格者数はここ数年では
最低となった。志願者増加の背
景として文系学部の人気回復に
加え、近隣の山形大学や宮城大
学の文系学部において学科改組
があり、過去の入試データが無
いことから、改組のなかった福
島大学へ近県からの志願者が増
加したことがあげられる。

難関国公立大学の合格につい
ては東北大学四名、筑波大学三
名と昨年度より増加し、私立大
学においても昨年に続き早稲田大
学については、合格者四名の
うち三名がAO入試となってお
り、今後も東北大学はAO入試
の募集人員を増やしていくこと
から、今回の合格で得たノウハ
ウを今後活かしていきたい。

センター試験はあと三回実施
すると「新テスト」に移行する。
本校では次年度入学する「三十
九期生」が新テスト受験一期生
となる。また入試制度も外部の
英語検定を用いる入試制度の導
入など多様化が見られ、さらに
新設大学や公立化する地方私立
大が登場するなど進路に関する
情報が絶えず変化している。本
校ではこの情報をきちんと整理
し、これらに対して的確な指導
ができるようにしていきたい。

35期総括



35期学年主任
松本 重明

1 はじめに

三十五期は三十四期同様七ク
ラス学年としてスタートした。
学年団の構成は主任の松本重
明、副主任の佐藤信治、担任の
松本仁子、齊藤章子、朝倉昭博、
霜山麻美、大槻文彦、副担任の
小野桃子、後藤沙織（二年、二・
三年は湯澤智幸）であった。学
年団の先生方には生徒達のため
に最大限尽力してくれたことに
感謝を申し上げたい。

2 東高の生徒らしく（一年）

入学式が終わり、学校生活が始
まった。応援歌練習と桜梅戦、
山寺での自然文化探究学習等を
経て、徐々に東高らしい生徒へ
と成長していった。生徒の多く
は部活に所属し、文武両道に励
んだ。ただ、考查前には試験勉
強を意識させるため、定期考查
一週間前から「考查前学習会」
を実施し、部活動終了後三〇分
程度教室で自主学習させた。帰
宅時間を考慮した三〇分という
短い学習時間ではあったが、生
徒達に考查について意識させる
には有効な企画であったと考
える。また、一学年の期間に多く
の外部講師を活用した講演会を
実施した。外務省職員、IPS
細胞研究の山中教授の研究所

長補佐、学年団中の教員が人生
で強く影響を受けた恩師等、国
際問題や進路に対する刺激にな
ればと考えての企画であった。

七月の文理選択については、
文系が四クラス、理系が三クラ
ス編成となった。この当時は
「文高理低」傾向がみられたた
め、文系の希望者が多いことは
受験ではいい結果になるのでは
と思われた。しかし二年後この
状況に変化が生じ受験で苦戦を
強いられることになる。

一年次は長期欠席者も少な
く、生徒達も明るくも落ち着い
た様子で過ごしていった一年間
であった。

3 文化祭、修学旅行、受験生 への切り替え（二年）

上記に示したように文系四ク
ラス、理系三クラスの編成で二
学年がスタートした。この年は
修学旅行に加え、三年に一度の
公開文化祭があり、この二つの
行事間の期間が長いほど浮つい
た気持ちが続いてしまうのでは
という懸念が学年団から出され
たため、修学旅行は公開文化祭
終了四日後に設定された。生徒
はどちらの行事も熱心に取り組
み、まず公開文化祭ではクラスが
団結して仮装行列やクラス企画
で素晴らしいパフォーマンスを
見せた。修学旅行は広島及び関
西方面で、初日の広島では平和
記念公園や原爆記念館で平和に
ついて考え、また、平和記念セレ
モニイでは、生徒代表の「平和へ

の誓い」の場面で原稿を全く見
ることなく、堂々と慰霊碑の前で
話す姿が印象に残った。二日以
降の大阪・京都では東北とは違
う文化に触れながら同じ班員と
の交流を深め、自主研修を楽し
んでいる姿が見られた。そして
比叡山の特別拝観では、根本中
堂にある「不滅の法灯」から「油
断」という言葉が生まれたなどあ
りがたいお話をいただいた。旅
行中大きなトラブルもなく、見学
地ではほとんどが集合時間の五分
前に集合する様子は、部活動で
鍛えられた賜物であることを実
感した。あまり天気には恵まれ
なかったが、生徒達は普段の授
業ではできない貴重な体験がで
き、生徒・学年団とも満足のいく
修学旅行であった。

旅行後、すぐに学年集会を開
き、受験生としての切り替えを促
した。朝の課外も始まったが、
思ったより切り替えは進まな
かった。そのため外部模試でも
全体の成績は伸びず、上位層も
前年度より少ない状況であった。
この結果から業者より国公立大
学合格数の予測がなされたが、
かなり厳しいものとなった。

4 部活動引退、厳しい模擬試 験の結果、そして受験へ（三年）

三年は一年次に使用した南校
舎に教室および三年職員室を配
置するという、北校舎工事の影
響を受けない配慮をしていただ
いた。この環境のもとで生徒達
は文武両道に励んだ。一学期中

で耐震工事が終了し、従来の教室配置に戻ることとなった。部活動も多くは引退となり、学業に専念できる環境となったが、成績については思うように伸びないどころか、九月の模試ではここ数年では最も厳しい結果となった。部活動については、美術部から全国総文祭への出品といったうれしい話もあったが、運動部では全国大会への出場する種目が出ないなど模試と共に厳しい結果であった。このため急遽業者を呼んで成績分析会を実施し、業者や学年外の先生方から多くのアドバイスをいただいた。学年集会なども開き、以後は危機感を持ちながらかなりの集中力で授業や課外に取り組んだ。十一月の模試ではようやく例年の状況に近い成績となり、生徒達も自信が付き、ますます集中して学習に取り組んだ。また推薦入試も出した生徒達は熱心に取り組む、東北大学A O II期の三名をはじめとして例年以上の合格者を出すことができた。

センター試験は国語が難化したのが動揺することなく、例年の状況に近い成績を上げることができた。二者面談を通して文系、理系とも多くの生徒が国公立大学に申し、点数の厳しい生徒もあきらめることなく、二次試験まで課外や自主学習を集中して取り組み姿が見られた。

5 受験結果

目標としていた「国公立大学

合格一〇〇名」という目標を達成することができた。この年は地元福島大学の経済経営、行政政策学類が周辺大学の改組のあおりを受け高倍率になり、文系は苦戦したが、理系は予想以上の頑張りで合格者数を伸ばし、中・後期は文系・理系とも善戦し、三月下旬の追加合格二名でようやく一〇〇名達成となった。主な合格大学は東北大四名、筑波大三名、山形大十一名、新潟大九名、地元福島大二十七名であった。また私立では難関である早稲田大にも合格者を出すことができた。九月までの成績を考えると生徒は本当によく頑張りを発揮してくれたと思う。

6 結びに

三十五期の生徒達は基本的に素直で、先生方の話をよく聞き、部活動や学習面でコツコツ努力していた。そして三年後半の学習への集中力と取組みは本当に素晴らしいものであった。それらを引きだしたのは、まぎれもなく学年団や学年を指導してくれた先生方である。また進路指導部を始めすべての先生方のアドバイスや協力があって、多くの生徒達の進路実現が可能となったと考えている。最初に学年団の先生方に感謝を述べたが、三十五期にかかわってくれたすべての先生方に感謝申し上げて三十五期総括の結びとしたい。

全国大会出場報告

**7年ぶり2度目の
インターハイ(男子団体)**

弓道部顧問 千葉 聡

男子団体でのインターハイ出場は平成二十二年沖繩開催以来七年ぶり。喜びもひとしおでした。県選抜の菅野、昨年度全国選抜個人出場の吉田を有したものの、地区大会では振るわず二位、県大会では大会四連覇を目指す白河、好調の平工業を相手にどれだけの試合ができるかが課題でした。追い込まれた決勝リーグ最終戦での二十射十八中は壮観でした。一勝一敗で三校が横並びの状況から貴重な一勝をあげ、的中率で優勝となりました。

さて、宮城開催のインターハイ。予選を二十射十六中と四十八校中三位で通過。抽選の結果一回戦の相手は茨城県代表清真学園。昨年度のインターハイを制した強豪です。毎年のように合同練習を行い、切磋琢磨してきた弓友との対決となりました。結果十五中対十二中。完敗です。直前まで必死に調整を繰り返し、全力で戦った結果です。「何が足りなかったのだろうか?」という選手の声。

足りなかったことなどたくさん

んあります。しかし、「全員で最後まで戦い抜いた」という事実が大切なのだと思っています。足りなかったことをこれからの人生で吸収し、立派な大人に成長してくれると確信できた一週間となりました。

チームとして足りなかったこと...それは後輩たちの仕事です。たかが部活、されど部活。部活動を通して逞しい大人に成長を遂げて欲しいと切に願います。



インターハイ出場報告

テニス部顧問 朝倉 昭博

会津若松市で行われた全国高校総体に参加してきました。福

島県で開催されるインターハイに出場することは選手・監督ともに夢であり、会津若松市で開催が決まっただけでは出場し上位進出することが目標でした。理想は団体・個人シングルス・個人ダブルスの三種目で出場することでした。しかし、残念ながら個人シングルス一種目のみの出場でした。選手は各校の総合力を競う団体戦でインターハイに出場することを夢見て厳しい練習や遠征に参加し、出場まであと一歩のところまで迫ることができました。ところが、インターハイ出場ばかりを考えてしまい、その先を考えられなかった監督の力不足で逃してしまいました。本当に選手は応援団も含めて気迫・プレーともに最高のプレーをしてくれました。この場を借りて感謝します。それでもキャプテンでもあるエース渡辺祐希選手がシングルスで出場を決めてくれました。彼の活躍により部員全員の夢を繋ぐことができました。八月の猛暑の中いよいよインターハイが始まりました。第四シードの選手と対戦しました。残念ながらスコア一八で敗退してしまいました。地元選手の活躍に大きな拍手を頂けたことに感動しました。この経験を胸に部員全員が今の状況に満足せずにさらなる高みを目指して努力してくれることを

期待します。応援・そのほか周囲で支えてくださった全ての方に感謝申し上げます。そしてまた同じ舞台に戻ってくることを夢見て選手ともども努力してまいります。

国民体育大会に出場して

ソフトボール部 武澤 優磨
私達ソフトボール部は、選抜された五人で、愛媛で行われた国民体育大会に出場してきました。

各高校から数人ずつ選ばれたメンバーでのチームということ、いろいろと不安な面も多かったですが、最終的に絆は深まり、良いチームになりました。開会式や試合の雰囲気は独特なもので、今までに経験したこ



とのないほどの緊張感がありました。全国大会出場が今回初めてだったので緊張もありましたが、自分自身楽しみのの方が大きくて試合が待ち遠しく、テンションも上がっていました。

試合当日はあいにくの雨でグラウンドコンディションが非常に悪い中での試合でした。結果は千葉県に負けベスト八止まりとなってしまうましたが、五位という成績で高校ソフトが終了しました。

国体という大舞台を経験できたことを財産として、これからもソフトボールを続け、全国優勝を目標に努力していきたいと思えます。

NHK杯高校放送コンテストに参加して

放送委員会顧問 伊藤 規生

今年NHK杯高校放送コンテスト(以下「Nコン」)にテレビ番組で参加して参りました。昨年は全国進出を逃す結果となってしまうましたので、二年ぶりです。

参加権を得たのは「テレビドキュメント部門」で、高校生の目線に立って八分のテレビ番組を作り、そのできばえを競うものです。福島市内で地元産の絹糸から織物を作り販売する傍ら、技術伝承やPR活動をされ



ている方にインタビューし、自分たちの地元を「ないないづくし」で見るとは「あるものさしがし」をしようというメッセージを発信する内容です。

生徒たちは上位入賞目指して細部にわたって作り込みを行いました。元「ネタ」が地味であったためか、審査員たちの目を引くには至らなかったようです。

来年はラジオ部門やアナウンス・朗読でも全国大会に進出できるよう、努力したいと思えます。

毎度のことですが、同窓会から頂く激励金は生徒たちの自己負担軽減に役立てさせて頂いております。ここに感謝申し上げます。

●運動部

野球部

- ▼第69回春季東北地区高等学校野球福島県大会(5月22日)
 - 1回戦 11-1本宮
 - 2回戦 8-10福島成蹊
 - 敗者復活2回戦 15-1福島明成
 - 敗者復活3回戦 9-8保原
 - 第5・6代表決定戦 5-0二本松工
- ▼第69回春季東北地区高等学校野球福島県大会(5月12日)
 - 1回戦 8-7福島商
 - 2回戦 15-2相馬
 - 準々決勝 8-7光南
 - 準決勝 5-7いわき光洋
 - 第3代表決定戦 8-9東日大昌平
- ▼第60回春季東北支部高等学校野球選手権大会(6月9日)
 - 2回戦 6-5福島
 - 3回戦 8-11福島西
- ▼第99回全国高等学校野球選手権福島大会
 - 2回戦 5-1会津工
 - 3回戦 2-1須賀川
 - 4回戦 1-9光南
- ▼第69回秋季東北地区高等学校野球福島県大会(5月22日)
 - 1回戦 3-5福島工
 - 敗者復活1回戦 4-1本宮
 - 敗者復活2回戦 3-0福島北

平成29年度部活動報告

第5代表決定戦

- 14-0福島南
- ▼第69回秋季東北地区高等学校野球福島県大会
 - 1回戦 0-5いわき光洋

- ▼第28回秋季東北支部高等学校野球選手権
 - 2回戦 0-10聖光学院

サッカー部

- ▼平成29年度第63回福島県高等学校体育大会サッカー競技
 - 準決勝 5-0福島
 - (5月14日 十六沼公園サッカー場)
 - 決勝 1-1福島工業
 - (5月15日 十六沼公園サッカー場 (PK4-3))
- ▼平成29年度第63回福島県高等学校体育大会サッカー競技
 - (5月27日) 29日鳥見山多目的広場、福島市十六沼公園サッカー場、6月2日、3日いわきグリーンフィールド) 第2位
 - 2回戦 4-0二本松工業
 - (5月28日 十六沼公園サッカー場)
 - 準々決勝 2-0聖光学院
 - (5月29日 十六沼公園サッカー場)
 - 準決勝 1-0帝京安積
 - (6月2日 いわきグリーンフィールド)
 - 決勝 0-6尚志
 - (6月3日 いわきグリーンフィールド)
- ▼第59回東北高等学校サッカー選手権大会(6月15日) 19日岩手県営運動公園陸上競技場(ほか)

- 1 回戦敗退
- 1 回戦 0-4 東北学院
- (6月16日 岩手県営運動公園 サッカーラグビー場第1グラウンド)
- ▼F1 リーグ (高円宮U-18 サッカーリーグ2017 福島県リーグ)
- 第3位
- 勝ち点34 (10勝4敗4分)
- 第1節 0-3 学法石川
- (4月8日 相馬光陽サッカー場)
- 第2節 2-0 磐城
- (4月15日 相馬光陽サッカー場)
- 第3節 0-6 尚志2nd
- (4月22日 尚志高校)
- 第4節 2-1 湯本
- (4月29日 いわきグリーンフィールド)
- 第5節 1-0 郡山
- (5月3日 十六沼公園サッカー場)
- 第6節 4-0 帝京安積
- (5月6日 鳥見山公園多目的運動場)
- 第7節 3-0 郡山商業
- (6月10日 あづま補助陸上競技場)
- 第8節 1-1 白河
- (6月24日 十六沼公園サッカー場)
- 第9節 1-1 福島工業
- (7月1日 相馬光陽サッカー場)
- 第10節 0-5 学法石川
- (7月8日 十六沼公園サッカー場)
- 第11節 1-1 磐城
- (7月15日 新舞子フットボール場)
- 第12節 0-1 尚志2nd
- (7月17日 十六沼公園サッカー場)
- 第13節 1-0 湯本
- (7月22日 いわきグリーンフィールド)
- 第14節 3-0 郡山
- (8月26日 十六沼公園サッカー場)
- 第15節 2-1 帝京安積
- (9月2日 十六沼公園サッカー場)
- 第16節 1-0 郡山商業
- (9月9日 十六沼公園サッカー場)
- 第17節 1-1 白河
- (9月16日 福島空港公園)
- 第18節 1-0 福島工業

- (9月23日 十六沼公園サッカー場)
- ▼F3 リーグ (高円宮U-18 サッカーリーグ2017 県北リーグ)
- 第10位
- 予選リーグA組6位
- 勝ち点5 (1勝3敗2分)
- 第1節 1-1 二本松工業
- (4月23日 二本松工業高校)
- 第2節 0-2 安達
- (4月29日 福島東高校)
- 第4節 1-2 聖光2nd
- (5月6日 十六沼公園サッカー場)
- 第5節 1-4 保原
- (6月10日 福島東高校)
- 第6節 1-0 福島南
- (6月17日 福島南高校)
- 第7節 1-1 福島西
- (7月1日 二本松工業高校)
- 順位決定リーグ戦(9-12位)
- 第1試合 3-1 福島成蹊
- (7月25日 十六沼公園サッカー場)
- 第2試合 1-3 聖光2nd
- (7月26日 十六沼公園サッカー場)
- 第3試合 3-1 橘
- (7月27日 十六沼公園サッカー場)
- ▼第96回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会
- ベスト8
- 1次大会 免除
- 2次大会
- 4回戦 3-1 会津工業
- (10月15日 相馬光陽サッカー場)
- 準々決勝 0-2 聖光学院
- (10月21日 十六沼公園サッカー場)
- ▼平成29年度福島県高等学校新人体育大会サッカー競技県北地区大会
- (11月10日-13日 福島市十六沼公園サッカー場)
- 第3位
- 2回戦 3-0 橘
- (11月11日 十六沼公園サッカー場)
- 準決勝 1-5 福島工業

- (11月12日 十六沼公園サッカー場)
- 敗者復活4回戦 1-0 福島
- (11月13日 十六沼公園サッカー場)
- 3位決定戦 5-0 福島南
- (11月13日 十六沼公園サッカー場)
- 卓球部
- ▼福島県高等学校体育大会県北地区大会
- 男子 個人シングルス 佐藤 県大会出場
- 女子 個人ダブルス 篠田・齋藤 県大会出場
- ▼第63回福島県高等学校体育大会県大会
- 男子 個人シングルス 佐藤 3回戦敗退
- 女子 個人ダブルス 篠田・齋藤 初戦敗退
- ▼第70回福島県総合体育大会卓球競技県北地区予選
- 男子 学校対抗 第6位 県大会出場
- 個人シングルス 山科・佐藤・小河原・原田 県大会出場
- 女子 学校対抗 第5位 県大会出場
- 個人シングルス 篠田・竹内・大内 県大会出場
- ▼第70回福島県総合体育大会卓球競技県大会
- 男子 学校対抗 初戦敗退
- (福島東0-3 会津学鳳)
- 個人シングルス 篠田・竹内・大内 (初戦敗退)
- ▼平成29年度全日本卓球選手権大会県北地区予選
- 男子 ジュニアシングルス 鈴木・山科・二階堂・佐藤 県大会出場
- 女子 ジュニアシングルス 篠田・竹内・大内 県大会出場
- ダブルス 竹内・大内ペア 県大会出場
- 混合ダブルス 佐藤・大内ペア 山科・篠田ペア (初戦敗退)
- ▼福島県高等学校新人体育大会県北地区大会
- 男子 個人シングルス 山科・佐藤・原田 (初戦敗退)

- 小河原 (3回戦敗退)
- 女子 学校対抗 第4位 県大会出場
- 個人シングルス 山科・佐藤・鈴木 県大会出場
- 個人ダブルス 山科・小河原ペア 佐藤・鈴木ペア 二階堂・猪口ペア 県大会出場
- ▼平成29年度全日本卓球選手権大会県北地区予選
- 男子 ジュニアシングルス 鈴木・山科・二階堂・佐藤 県大会出場
- 女子 ジュニアシングルス 篠田・竹内・大内 県大会出場
- ダブルス 竹内・大内ペア 県大会出場
- 混合ダブルス 佐藤・大内ペア 山科・篠田ペア (初戦敗退)
- ▼福島県高等学校新人体育大会県北地区大会
- 男子 個人シングルス 山科・佐藤・原田 (初戦敗退)

- 陸上競技部
- ▼福島県高等学校体育大会県北地区予選会 3位以内のみ
- 男子 400m 島 海人 第2位
- 1500m 高橋信太郎 第2位
- 5000m 高橋信太郎 第1位
- 安部竜太郎 第2位
- 3000m S C 田崎健太郎 第1位
- 鈴木 悠 第3位
- やり投げ 武藤秀平 第1位
- 女子 100m H 遠藤優花 第3位
- 400m H 服部真実 第3位
- 4x100m R 第3位
- 砲丸投 渡辺愛菜 第3位
- ▼福島県高等学校体育大会 ※入賞者のみ
- 男子 個人 やり投げ 第6位
- 武藤秀平 東北大会出場
- ▼平成29年度東北高等学校陸上競技大会
- 男子 やり投げ 武藤秀平 25位
- 3位以内のみ

男子 800m 島 海人 第3位
 1500m 鳴原 廉 第1位
 5000m 高橋信太郎 第1位
 1万m 高橋信太郎 第1位
 110H 山北大暉 第3位
 300m S C 鈴木 悠 第3位
 B 300m 六戸智紀 第3位
 B 110 J H 山北大暉 第1位
 B 走幅跳 早川瑛士 第2位
 B 砲丸投 小野凌雅 第3位

女子 遠藤優花 第3位
 1500m 大内菜喜 第3位
 3000m 大内菜喜 第1位
 B 800m 佐藤美陽 第3位
 100m H 遠藤優花 第1位

県高校新人陸上競技大会県北地区予選会
 3位以内のみ

男子 800m 齋藤 錬第1位
 110m H 岡野大樹第3位
 1500m 安部竜太郎 第1位
 5000m 安部竜太郎 第1位
 400m H 山北大暉 第2位
 400m H 山北大暉 第3位
 やり投 武藤秀平 第1位

女子 佐藤美陽 第3位
 1500m 大内菜喜 第2位
 3000m 大内菜喜 第2位
 100m H 遠藤優花 第2位
 400m H 遠藤優花 第3位

県高校新人陸上競技大会

男子 安部竜太郎 第8位
 やり投 武藤秀平 第3位

女子 遠藤優花 第8位

400m H 遠藤優花 第7位

東北高校新人陸上競技大会

男子 安部竜太郎 第5位
 やり投 武藤秀平 第7位

福島県高等学校総体大会

男子 東北大会出場 第4位
 安部竜太郎・鳴原廉・佐藤海斗・田崎健太郎・風間皓洋・鈴木悠・高橋信太郎

バスケットボール部

福島県高等学校総合体育大会
 県北地区大会

男子 予選トーナメント
 福島東93―22学法福島
 福島東73―62福島商業
 決勝トーナメント
 福島東78―97福島東稜
 福島東49―53福島

女子 予選リーグ 福島東48―55本宮
 県大会出場決定トーナメント
 福島東52―54福島南

福島県高等学校総合体育大会

男子 1回戦 福島東78―37原町
 2回戦 福島東90―66田村
 準々決勝
 福島東56―83若松商業

福島県総合体育大会県北地区大会

男子 1回戦 福島東145―19梁川川俣
 準々決勝 福島東69―50保原
 準決勝 福島東60―92福島工業

女子 1回戦 福島東29―52福島

福島県総合体育大会

男子 1回戦 福島東51―76郡山

福島県選抜高校バスケットボール選手権大会県北地区大会

男子 予選トーナメント
 福島東65―33保原
 福島東53―89福島成蹊
 県大会出場決定トーナメント
 福島東158―25聖光学院
 福島東83―58橘

女子 予選トーナメント
 福島東31―73福島
 県大会出場決定トーナメント
 福島東54―79安達

福島県選抜高校バスケットボール選手権大会

男子 1回戦 福島東71―78白河

平成29年度福島県高等学校体育大会県北地区大会

男子 予選リーグ
 福島東2―0福島西
 福島東2―0保原
 福島東0―2福島

決勝リーグ
 福島東2―0二本松工
 福島東2―0学法福島
 福島東0―2福島商
 福島東0―2福島工

福島東0―2福島

11チーム中第4位

女子 予選ブロック
 福島東0―2安達
 福島東2―0聖母
 福島東0―2福島南
 福島東2―0福島
 福島東1―2福島商
 福島東0―2成蹊
 福島東2―0福島

15チーム中13位

福島県高等学校体育大会

男子 第1回戦
 福島東2―0会津
 第2回戦
 福島東0―2福島商

第70回福島県総合体育大会県北地区大会

男子 予選リーグ
 福島東2―0二本松工
 福島東2―0福島北
 福島東1―2福島明成
 福島東0―2福島商

順位決定リーグ
 福島東2―0福島北
 福島東2―0学法福島
 福島東1―2保原

10チーム中 第6位

女子 予選ブロック
 福島東0―2安達
 福島東0―2福島商
 福島東2―0福島

予選敗退(9位)

県北地区1年生大会

男子 第2回戦
 福島東2―0福島北
 決勝戦
 福島東2―0法福島

優勝

県北地区高等学校バレーボール秋季選手権大会

男子 予選リーグ
 福島東2―0福島西
 福島東2―0福島北
 福島東2―0保原

ブロック1位

決勝リーグ
 福島東0―2福島商業
 福島東2―0福島工

11チーム中 第2位

女子 予選ブロック
 福島東0―2橘
 福島東2―1福島商業

順位決定トーナメント
 福島東2―0福西
 福島東2―1保原
 福島東0―2聖光

14チーム中3位

テニス部

福島県春季ジュニアシングルス選手権大会

男子 18歳以下 2位 渡辺祐希

福島県高等学校体育大会県北地区大会

男子 学校対抗 優勝
 シングルス 1位 渡辺祐希
 ダブルス 1位 渡辺祐希・紺野竜加
 3位 鈴木大翔・佐藤魁

女子 学校対抗 5位
 シングルス 3位 安齋ひかり
 5位 野地紅美子
 ダブルス 3位 安齋ひかり・野地紅美子ペア
 ベスト8 渡邊萌花・渡邊歩実ペア

福島県高等学校体育大会

男子 学校対抗 4位
 シングルス 3位 渡辺祐希
 ダブルス 3位 渡辺祐希・紺野竜加ペア

女子 学校対抗 2回戦敗退

東北高等学校体育大会

男子 シングルス

- ベスト8 渡辺祐希
- ダブルス 3位 渡辺祐希・紺野竜加ペア
- 東北ジュニアテニス選手権大会 男子 シングルス ベスト8 渡辺祐希
- ダブルス ベスト8 渡辺祐希
- ベスト8
- 渡辺祐希・紺野竜加ペア
- 福島県総合体育大会県北地区大会 男子 シングルス 3位 佐藤魁
- II部シングルス 優勝 富田健司
- II部ダブルス 3位 富田健司・竹内悠大
- 女子 I部シングルス 3位 渡邊歩実
- 4位 野地紅美子
- 5位 高野遥香
- 9位 秋葉真凜
- I部ダブルス 2位 野地紅美子・渡邊歩実ペア
- 6位 高野遥香・大槻理佳ペア
- 9位 秋葉真凜・國分彩花ペア
- 東北ジュニアシングルステニス選手権大会 男子 3位 佐藤魁
- 福島県高等学校新人体育大会 県北地区大会 男子 学校対抗 6位
- 女子 学校対抗 1位

- 福島県高校新人テニス選手権大会 男子 学校対抗 ベスト16
- 女子 学校対抗 2回戦敗退
- 柔道部 福島県高等学校体育大会県北地区大会 男子 団体 第5位
- 予選リーグ 福島東4―0福島明成
- 福島東2―3二本松工業
- 福島東0―5聖光
- 5―8位決定戦 福島東3―2福島工業
- 福島東4―1福島南
- 個人 73kg級 第2位 菊地健太
- 60kg級 第3位 長井真輝
- 女子 個人 52kg級 第1位 渡辺伶菜
- 福島県高等学校体育大会 男子 団体 1回戦 福島東5―0会津
- 2回戦 福島東0―5学石
- 個人 73kg級 菊地 2回戦敗退
- 60kg級 長井 1回戦敗退
- 女子 個人 52kg級 渡辺 第3位
- 福島県総合体育大会県北地区大会 少年男子 先鋒の部 第1位 久保田智也
- 大将の部 第6位 原井汰朗
- 少年男子 第6位 原井汰朗
- 少年男子 第6位 原井汰朗
- 少年男子 第6位 原井汰朗
- 少年男子 第6位 原井汰朗

- 大将の部 1回戦敗退
- 先鋒の部 2回戦敗退
- 少年女子 先鋒の部 2回戦敗退
- 福島県高等学校新人体育大会 県北地区大会 男子 団体 第3位 県大会出場
- 予選リーグ 福島東0―5福島北
- 福島東4―1二本松工業
- 福島東3―2福島明成
- 3―6位決定戦 福島東3―2保原
- 福島東3―2福島工業
- 個人 60kg級 第1位 久保田智也
- 66kg級 第3位 原井汰朗
- 以上2名他2名県大会出場
- 福島県高等学校新人大会 男子 団体 予選リーグ2勝0敗
- 3校リーグ 福島東3―2磐農
- 福島東3―1会農
- 決勝リーグ 福島東0―5田村
- ベスト8校により全国高等学校柔道選手権大会福島県大会出場
- 個人 すべて1―2回戦敗退
- 剣道部 福島県高等学校体育大会県北地区大会 男子 団体戦 3位(県大会出場)
- 男子個人戦 立子山健太(2―1)
- 女子 団体戦 9位(県大会出場)
- 7位(県大会出場)
- ※女子は5人制の団体戦に3名で出場。
- 女子個人戦

- 佐藤真由子(3―3)
- 9位(県大会出場)
- 福島県高等学校体育大会 男子 団体戦 ベスト8
- 2回戦(対 学法石川高校) 3(4)―1(1)勝
- 3回戦(対 保原高校) 4(7)―1(2)勝
- 準々決勝(対 平工業高校) 1(3)―4(7)負
- ※平工業高校が優勝
- ※(―)外が勝者数 (―)内は取得本数
- 男子個人戦 立子山健太 1回戦敗退
- 女子 団体戦 1回戦(対 葵高校) 2(3)―2(4)
- ※女子は5人制の団体戦に3名で出場。
- 女子個人戦 佐藤真由子 1回戦敗退
- 福島県総合体育大会県北地区大会 男子 団体戦 5位(県大会出場)
- 立子山健太(2―1)
- 5位(県大会出場)
- 福島県総合体育大会 男子 団体戦 1回戦(対 平工業高校) 1(1)―3(3)負
- 男子個人戦 立子山健太 1回戦敗退
- 福島県高等学校新人体育大会 県北地区大会 男子 団体戦 5位(県大会出場)
- 立子山健太(2―1)
- 3位(県大会出場)
- 福島県高等学校新人体育大会 男子 団体戦 ベスト8

- 1回戦(対 葵高校) 4(8)―0(1)勝
- 2回戦(対 磐城高校) 3(3)―0(0)勝
- 準々決勝(対 学法福島高校) 1(3)―1(3)代表者戦で敗
- ※勝者数、取得本数ともに同数のため代表者戦
- ※学法福島高校が優勝
- ※(―)外が勝者数 (―)内は取得本数
- 男子個人戦 立子山健太(2―1)
- ベスト16
- ハンドボール部 第68回福島県春季ハンドボール選手権大会(4月15日～16日) 2回戦 日大東北36―21
- 3回戦 いわき総合23―15
- 準決勝 安積32―26
- 決勝 学法石川14―35
- 【最終順位】準優勝
- 平成29年度第63回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技県北地区大会(5月13日～15日) 2回戦 福島27―17
- 準決勝 福島西33―30
- 決勝 福島工業27―23
- 【最終順位】優勝
- 平成29年度第63回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技(5月26日～28日、6月2日～3日) 予選トーナメント 1回戦 郡山21―19
- 2回戦 帝京安積25―19
- Dブロック第1位通過
- 男子決勝リーグ 福島工業24―25
- 聖光学院30―23
- 学法石川13―34
- 【最終順位】第3位

- ▼平成29年度福島県総合体育大会県北地区大会(6月10日~12日)
 - Aブロックトーナメント
 - 1回戦 福島商業
 - 2回戦 福島西
 - 第1位通過
 - 決勝トーナメント
 - 準決勝 聖光学院
 - 決勝 福島工業
- ▼【最終順位】第2位
 - 第70回東北高等学校ハンドボール選手権大会(6月22日~25日)
 - 1回戦
 - 岩手県立盛岡南高校20~26
 - 1回戦敗退
 - ▼第70回福島県総合体育大会(6月30日~7月2日)
 - 1回戦 須賀川28~17
 - 2回戦 平工業31~21
 - 準決勝 学法石川16~33
 - ▼【最終順位】第3位
 - 第4回福島県総合体育大会(9月9日~9月10日)
 - 予選Bブロック
 - 1回戦 福島西
 - 2回戦 福島商業
 - 結果 1位通過
 - 決勝トーナメント
 - 準決勝戦 福島
 - 決勝戦 福島工業
 - ▼【最終順位】第1位
 - 平成29年度福島県新人体育大会県北地区大会
 - 予選トーナメント
 - 1回戦 福島商業
 - 2回戦 聖光学院
 - 2位通過
 - 決勝トーナメント
 - 準々決勝 福島商業
 - 準決勝 福島工業
 - 決勝 聖光学院
 - ▼【最終順位】第1位

水泳部

- ▼福島県高等学校体育大会県北地区予選(森合市民プール)
 - 男子
 - 100m平泳ぎ1位 上野智弘
 - 200m平泳ぎ1位 上野智弘
 - 100m背泳ぎ2位 小林史弥
 - 200m背泳ぎ2位 小林史弥
 - 50m・100m自由形 古宇田大輔
 - 古宇田大輔
 - 穴戸康太
 - 100mバタフライ 齊藤貴大
 - 50m自由形 志賀柚人
 - 100m自由形・平泳ぎ 菅谷光平
 - 400mリレー4位 小林・穴戸・古宇田・上野
 - 800mメドレーリレー3位 小林・志賀・古宇田・上野
 - 女子
 - 100m・200m背泳ぎ 荒明颯希
 - 以上が県大会出場となった
 - ▼第63回福島県高等学校体育大会(いわき市民プール)
 - 男子
 - 100m背泳ぎ7位 小林史弥
 - 100m平泳ぎ6位 上野智弘
 - 200m平泳ぎ7位 上野智弘
 - 2名3種目で東北大会出場
 - ▼東北水泳大会(セントラルスポーツ宮城G21プール)(7月20日~7月23日)
 - 男子
 - 100m背泳ぎ 小林史弥
 - 100m平泳ぎ 上野智弘
 - 200m平泳ぎ 上野智弘
 - 予選敗退
 - ▼福島県総合体育大会(郡山カルチャーパークプール)(7月29日・30日)
 - 女子
 - 200m平泳ぎ 荒明颯希

山岳部

- ▼第52回福島県高等学校新人大会(郡山しんきん開成山プール)
 - 女子
 - 100m平泳ぎ 荒明颯希
 - 決勝4位 東北大会出場
 - ▼第25回東北高等学校新人水泳競技大会(郡山しんきん開成山プール)
 - 女子
 - 100m平泳ぎ 荒明颯希
 - 予選敗退
 - ▼福島県高等学校体育大会登山大会(会津駒ヶ岳)
 - 優秀パーティー:福島東A
 - パーティー:福島東B
 - ▼ソフトボール部
 - 福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール大会
 - 男子
 - 1回戦 福島東10~0相馬
 - 準決勝 福島東4~3郡山北工
 - 決勝 福島東12~2須賀川
 - ▼福島県高等学校体育大会
 - 男子
 - 予選リーグ
 - 福島東2~4安積黎明
 - 福島東7~0相馬
 - 2位通過
 - 準決勝 福島東1~8郡山北工
 - 福島東1~8郡山北工
 - 第3位
 - ▼福島県総合体育大会ソフトボール競技
 - 男子
 - 1回戦 福島東12~5相馬
 - 準決勝 福島東7~8郡山北工
 - 第3位
 - ▼平成29年度福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技
 - 男子
 - 1回戦 福島東12~5相馬
 - 準決勝 福島東7~8郡山北工
 - 第3位

バドミントン部

- ▼福島県高等学校体育大会県北地区予選
 - 男子
 - 予選リーグ
 - 福島東28~1安積黎明
 - 福島東10~2相馬
 - 1位通過
 - 準決勝 福島東0~5郡山北工業
 - 第3位
 - ▼福島県高等学校体育大会県北地区予選
 - 女子
 - 福島北・東6~4いわき総合
 - 福島北・東4~3田村
 - 福島北・東0~2福島東稜
 - ベスト8
 - ▼福島県高等学校体育大会県北地区大会
 - 男子
 - 予選リーグ
 - 安達・東1~26福島東稜
 - 安達・東0~7福島
 - 安達・東0~25福島成蹊
 - 安達・東1~8福島明成
 - 順位決定戦
 - 安達・東8~0福島北
 - 平成29年度福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技県北大会
 - 女子
 - 予選リーグ
 - 福島北・東0~10福島成蹊
 - 福島北・東5~4福島南
 - 福島
 - 福島北・東8~4福島西
 - 2位通過
 - 決勝リーグ
 - 福島北・東0~7福島東稜
 - 福島北・東3~7相馬東
 - 4位

弓道部

- ▼平成29年度福島県春季弓道大会(4月22日郡山市開成山弓道場)
 - 男子団体
 - 第3位
 - 菅野恭也、小野太一、安齋公大、山内和杜、吉田あおぞら、菅野湜起、大槻至
 - 男子個人
 - 第2位 吉田あおぞら
 - 第4位 菅野恭也
 - 女子団体
 - 第1位
 - 加藤雅、佐藤佑香、阿部遥、石川夏希、紺野桜子、平美咲、佐藤あづさ
 - (射道優秀賞)
 - 女子個人
 - 第6位 紺野桜子
- ▼福島県高等学校体育大会
 - 男子
 - 個人戦ダブルス
 - 三村・齋藤組 初戦敗退
 - 個人戦ダブルス
 - 三村・齋藤組 初戦敗退
 - ▼福島県高等学校体育大会
 - 男子
 - 個人戦ダブルス
 - 三村・齋藤組 初戦敗退
 - 個人戦ダブルス
 - 三村・齋藤組 初戦敗退
 - ▼福島県高等学校体育大会
 - 男子
 - 個人戦ダブルス
 - 三村・齋藤組 初戦敗退
 - 個人戦ダブルス
 - 三村・齋藤組 初戦敗退

- ▼平成29年度高校総体県北地区大会(5月13日～14日福島明成高校)
 - 男子団体
 - 第2位 菅野恭也、椿谷久翔、阿部 滉生、山内和杜、吉田あおぞら、安齋公大、八巻美仁
 - 男子個人
 - 県大会 菅野恭也
 - 女子団体
 - 第3位 伊藤清花、阿部遥、平美咲、石川夏希、紺野桜子、加藤 雅、大須賀萌々
 - 女子個人
 - 第6位 紺野桜子
 - 県大会 阿部遥、平美咲、加藤雅、佐藤あづさ、齋藤千菜美
- ▼第63回福島県高校総体県大会(6月3日～5日郡山市開成山弓道場)
 - 男子団体
 - 第1位 菅野恭也、椿谷久翔、八巻 美仁、山内和杜、吉田あおぞら、菅野滉起、安齋公大
 - 女子個人
 - 第5位 紺野桜子
- ▼第70回福島県総合体育大会県北地区大会(6月17日～18日福島明成高校)
 - 男子団体
 - 第3位 菅野恭也、菅野滉起、吉田 あおぞら
 - 男子個人
 - 第2位(射道優秀賞) 菅野恭也
 - 女子団体
 - 第4位 佐藤小雪、大須賀萌々、宮 木結香

- 女子個人
 - 第6位 紺野桜子
 - 県大会 佐藤小雪
- ▼第70回福島県総合体育大会(7月6日～8日近の、会津総合体育館、遠的、河東弓道場)
 - 男子
 - 近の部
 - 男子個人
 - 第3位 菅野恭也
 - 遠的の部
 - 男子団体
 - 第3位 菅野恭也、菅野滉起、吉田 あおぞら
 - 段氏湖人
 - 第4位 菅野恭也
 - 女子団体
 - 第5位 佐藤小雪、大須賀萌々、宮 木結香

●文化部

- 合唱部
 - ▼県北地区音楽祭参加(5月福島市音楽堂)
 - ▼県音楽学習発表会参加(6月会津風雅堂)
 - ▼インターハイウエイトリフティング競技開会式演奏(8月 福島明成高)
 - ▼第15回定期演奏会(8月 福島市音楽堂)
 - ▼福島県合唱コンクール 金賞 県代表(9月 郡山市民文化センター)
 - ▼全日本合唱コンクール東北支部大会 銀賞(9月 郡山市民文化センター)
 - ▼※(今後)福島県声楽アンサンブルコンテスト(12月 福島市音楽堂)
 - ▼※(今後)郡山・郡山東・福島東・日大東北・喜多方5校ジョイントコンサート(2月 郡山女子大学建学記念講堂)
- 吹奏楽部
 - ▼第34回定期演奏会開催(5月福島県文化センター)
 - ▼県北地区音楽祭参加(5月福島市音楽堂)
 - ▼県音楽学習発表会参加(6月郡山市民文化センター)
 - ▼吹奏楽コンクール県北大会 金賞 支部代表(7月 福島市音楽堂)
 - ▼吹奏楽コンクール県大会 銀賞(8月 郡山市民文化センター)
 - ▼※(今後)福島県アンサンブルコンテスト県北大会(12月 福島県文化センター)
 - ▼※(今後)福島県アンサンブルコンテスト県大会(1月 いわき文化芸術交流館アリオス)
- 美術部
 - ▼第71回福島県総合美術展覧会 青少年美術奨励賞・県文化センター館長賞 三浦 柚香
 - ▼青少年美術奨励賞・県教育長賞 鳴原優奈、國嶋菜月、齋藤 菜緒
 - 入 選
 - 熊田敏秀、山下葵、佐久間 大夢、佐藤凜、武田万由子
 - ▼福島県防犯協会連合会地域安全運動ポスターコンクール 高校生・一般の部 最優秀 坂本 千晶
 - ▼高校生・一般の部 優秀 佐藤 登門
 - ▼第51回福島市民美術展覧会 青少年奨励賞 武田万由子
 - ▼第85回記念福島県美術協会展 高校生優秀 武田万由子、鳴原優奈、佐藤 登門

- 書道部
 - ▼第62回福島県たなばた展 個人賞
 - たなばた賞
 - 2年 阿部絵梨華
 - 銀河賞 2年 佐藤真由香
 - 奨励賞 3年 鏡 千夏
 - 団体賞 学校賞
- 放送委員会
 - ▼第64回NHK杯高校放送コンテスト県北相双大会
 - アノウンス 塚本美鈴
 - 優秀7席 県大会出場
 - 朗読 古川百花
 - 優秀6席 県大会出場
 - テレビドキュメント
 - 優秀1席 県大会出場
 - 創作ラジオドラマ 優秀2席 県大会出場
 - 県大会 テレビドキュメント 優秀2席 全国大会出場

平成29年度(36期生) 部活動を終えて

生徒会を通して学んだことは、「基本が大事」ということと「諦めないこと」の二点です。部活動は一人ではできません、基本です。顧問の先生方や同じ部の仲間、家族の協力なしでは成り立ちません。その基本を理解し、協調性を重んじることを大切にすると普段の練習も大会の様な緊張感が臨むことができました。しかし、そのように練

た。生徒の意見を学校行事に反映することができた時には、大きなやりがいを感じました。また、学校内での活動だけでなく、ボランティア活動にも積極的に取り組んできました。多くの人の交流を通して、地域にも貢献することができたと思います。自分達が行動することによって、誰かの役に立てるということの喜びや素晴らしさを学ぶことができたと思います。

生徒会役員であるという責任感と誇りを持ち、学校行事の準備や運営、ボランティア活動などを行ってきたことは、自分自身を大きく成長させてくれたと思います。生徒会に入って学んだ自ら意見を出し、実行することの大切さを忘れず、社会でも生かしたいと思います。(本田夏希)

弓道部

生徒会

生徒会を通して学んだことは、自ら意見を出し、実行することの大切さです。生徒会では、生徒の意見を大切にして実現できるように意見を出し合いまし

習を積み重ねても、結果はなかなか出ませんでした。それでも必ず全国大会出場という目標を果たすため、暑い夏も寒い冬も耐え、最後まで諦めなかった結果が、全国大会出場だと考えます。

弓道はとても単純な競技です。弓を引き、矢を的へ中てるだけです。だからこそ基本の形がとても重要になります。そのことをこれからも忘れず、社会に出るからの生活にも役立てていきたいと思えます。(菅野恭也)

陸上競技部

「走りたい。」
部活を引退した今、私がふと思う気持ちだ。ここまで思う気持ちにさせるのも、東高校の陸上部として内容の濃い時間を過ごせたからだと思う。

振り返れば、毎日の練習では死に物狂いで練習に耐え、全てが楽しいというわけではなかったが、その中で、結果を残したり、練習を遣り遂げた達成感や嬉しさを得られることを学んだ。そうして私が部活動を通して一番に学んだことは、感謝の気持ちだ。毎日、熱心に指導してくれた顧問の先生、互いに切磋琢磨し合って高め合った仲間達、応援に駆けつけてくれた家

族、またOBやOGの方々にもお世話になり、このような周りのサポートが、自分の陸上に對する糧となった。そういった意味でも、この充実した環境の中で部活動に励めたことは、私の一生の財産である。(吉沢奎吾)

剣道部

私が部活動を通して学んだことは「継続力」と「忍耐力」です。入部当初の私は、一・二を争うぐらい弱く、試合に出れる状態ではありませんでした。です

ので、荒先生や先輩、仲間から言われたことを自分なりに解釈し、できるまでひたすら繰り返しました。二・三ヶ月たつても強くなった実感がなく、諦めてしまいそうになったことが何度かありました。その度に明日はきっと強くなっているはずと自分に言い聞かせて、なんとか耐え続けていました。その結果、レギュラーに入ることができました。また、自分の行動を日々見ていた部員が一緒になって練習してくれたおかげでチームの雰囲気も良くなり、最終的には県の8強まで登り詰めることができました。

剣道部で学んだ「継続力」と「忍耐力」を今後の生活に生かしていきたいです。(渡辺大輝)

水泳部

私は部活動を通してたくさんのことを学びました。その中でも特に印象に残っていることが二つあります。

一つ目は人をまとめるという大変さです。水泳部はほとんどの部員がスイミングスクールに通っていたため、各自で練習していました。大会などではその部員全員をまとめるながら自分のこともやらなければいけなかったのもとても大変でした。

二つ目は目標を達成するため大切なことです。私は東北大会出場という目標を持っていましたが、二年、三年と東北大会に出場することができませんでした。目標を実現することができたのは、たくさん練習し、あきらめず、そして周囲の人の支えがあったからだと思います。

これからは、部活動で学んだたくさんの方のことを将来に役立てていきたいと思えます。(上野智弘)

ハンドボール部

私が部活動を通して学んだことは、ぶれないことの大切さです。部長になったばかりの頃は、何をどうすればよいか全く分からず、自分で困ったり、周

りを困らせたり、とても苦労しました。最初の大会は迷いがあつてうまくいかないことばかりでしたが、時間が経つにつれてそれも無くなり、少し気が楽になりました。元々自分は優柔不断だったので、少しだけ信念のようなものができたからだと思います。ですが、時々、というか頻繁に、私は本当にこの決断で良いのだろうか、と悩みました。外面では決断したけど内面は揺らいでいるというのがしょっちゅうでした。部活が終わり、受験勉強に励む今、私

の間違ひなく思うのは、自分の考えがぶれては何もうまくいかないということ。後悔すること。ぶれずにやれば必ず自分に良い結果がもたらされると教えられた気がする部活動でした。(渡邊優介)

男子バレーボール部

私が部活動を通して学んだことは人が集団としてひとつになつて活動することの難しさです。バレーボールはチームスポーツであるうえに高校ともなれば部員の中でもそれぞれが目的意識や考えを持っていることが多くなります。そのため、時には対立してチームの雰囲気が悪くなり、練習中にも険悪な

ムードになつて影響を及ぼすこともありました。しかし部活という小さな単位とはいえ自分とは異なる考えの人間と共に活動するということを深く実感することができました。

また、感謝することの大切さも学びました。練習をみてくださる指導者の方や送迎に車を出してくれたり試合を見に来て応援してくれたりするのは当たり前の方々がいてくださるのは当たり前のことではありません。常に誰かのご好意に支えられていると意識してこれからも生活していきたいと思えます。(鈴木悠太)

女子バレーボール部

私が部活動を通して学んだ事はたくさんあります。一つは仲間との大切さです。入部した時、同年の部員が私を含め二人だけで正直とても不安でした。先輩方が引退して私達二人でチームを引っ張る事になり、大変な事がたくさんあったけど互いに考え乗り越える事ができ、本当に大切な存在です。もう一つは忍耐力です。どんなに辛い練習でも、チーム全員で励まし合いやり遂げた事はとても良い経験になりました。その成果が出て、試合に勝った時の喜びは忘

こと一つ一つ普通にやっていくことが、どこか気持ちの面などで役に立っていたのではないかと思う。

最後に、テニス部で同じ苦しみや喜びを分かち合い信じ合える仲間を得ることができました。また不自由なく、普通に部活動に取り組めたことはとても幸せなことだと思いました。このことができたのは家族や顧問の先生、仲間がいたからだと思っています。(渡辺祐希)

女子テニス部

今年度の女子テニス部は三年生二人、二年生六人、一年生二人の計十人で活動しました。

部活動を通して「挑戦」する気持ちを感じました。出来たか出来ないかではなく、やったかやらなかったか、出来たかもしれないことをやらずに終わる、後悔することになってしまいました。失敗してもいいから、やり通す強い気持ちを持つべきだと思います。また、最後まであきらめなければ、勝敗が変わることがあることを学びました。たとえ負けていても、「勝つ」という気持ちが大い方が勝つこともありました。先輩方から家族や使う道具、対戦相手、仲間、

自分への感謝の気持ちを学びました。

最後に、自分がどれだけテニスが好きなのかをわかりました。とても楽しく、充実した毎日の部活動でした。(安斎ひかり)

サッカー部

二年半の部活動が終わり、「自分は弱いな」と感じるばかりです。全て終わってからは気がつき、支えてくれる親がいたこと、同じ夢をもつてくれる先生がいたこと、そう中学卒業の節目に自分に分からせたつもりでした。しかし、同じ後悔、同じ思いを今感じます。なんとなく過ぎた一日がどれだけ価値のある時間だったのか。(これくらいいいや)と力を緩めた時間がどれだけ目標から自分を遠ざけたのか。全て終わってからは気がつきました。いつか先生が「人間は弱い生き物だ」と言いました。この言葉を僕は忘れませんでした。この二年半で学んだことは言葉では言い表しきれないものではないですが、間違いなく僕の人生を変え、土台をつくった時間でした。最後に、三十六期東高校サッカー部の活動を応援してくれた皆様、本当にありが

とうございました。(柴田理臣)

野球部

私は野球部の活動を通して学んだことは、仲間の大切さと集団をまとめることの難しさです。三年生が引退してから新チームになり自分が主将となってから多くの事で悩み考えてきました。その時私は何度もチームメイトに助けられました。自分の悩みを聞いて一緒に考えてくれる仲間がいることがどれだけ幸せなのかを知ることができました。

また主将として練習の雰囲気が悪い時にどうすれば皆を引っ張っていかれるのかを考える事が多くありました。この時、私は自分から声を出し雰囲気を上げる事を心掛けました。そして皆の士気も上がっていき、練習の雰囲気も良くなりました。集団をまとめるためには、先頭に立つ人が自ら行動し、示す事で集団を引っ張っていく事に繋がると分かりました。私はこれからの経験を社会に出るから活かしていきたいと思っています。(田中湧人)

男子バスケットボール部

二年間の部活動、一年間の

キャプテンを終えて、今、思うことはキャプテンを務めるってこんなに大変なんだ、ということ。一年間キャプテンを務めて、苦労した一年間だっただけに、学んだことは沢山ありました。

その一つは決断する事の難しさです。キャプテンをやっているとチームで動くとした時に、些細ですがしばしば決断を迫られます。周りの意見を聞き過ぎるのもだめ、聞かぬ過ぎるのもだめ、どうしても反対意見は出るもので、その中で決断をするというのは勇気がいる事だと知りました。

他にも、礼儀、コミュニケーション、一生懸命物事に取り組むことなど、バスケットのことももちろん教わりましたが、それ以外の所で部活動を通して人間的に成長できたところに意味があったと思います。これからこの経験を生かして頑張っていきたいです。(上野友寛)

女子バスケットボール部

私が部活動を通して学んだことは、私は多くの人に支えられて大好きなバスケットボールを続けていくことができたということです。このことを一番強く感じるこ

とができるのは、一月三日、コート開きが行われる日です。まず、お母さん達が温かいおにぎりを握ってくれます。常日頃から私達を一番近くで見守り、支えてもらいました。次にチームメイト。お正月から年末の大掃除まで毎日コートで共に汗を流し、喧嘩をしながらも同じ目標に向かって闘った仲間は一生私の宝物です。そして何より、見えない所でも福島東を一番に応援してくださっているOB・OGの皆様。毎年多くの先輩方に「頑張れよ」と声をかけていた、度々身を引く締め直すことができました。福島東という人にも恵まれたチームでバスケットができて幸せでした。感謝の気持ちを胸に、これからも精進したいと思えます。(丹治玲菜)

山岳部

高校で登山を始めて、他の部活には無い魅力に気づきました。大きなザックに装備を入れて、自然の中へ入って行く。そしてその中で普段の生活では見られない風景や動植物に出会う。そして、この山にまた登りたいと思う。

そして、仲間との交流を深める。共に同じテントで寝て、共に料理をする。たまに、料理は

失敗することもある。でも、皆そんなことお構いなしに楽しく食べる。学年は関係ない。そんなふうを感じるのも山の魅力だと思います。

僕は部長職を通して、リーダーの役割、計画的に行動すること、部員の意見を聞くことも大切だと感じました。そして何より、全員が無事に帰ってくるのが大切です。今年の三月の栃木県での雪崩事故をうけて、登山では危険が伴うことを再認識しました。今まで安全に登山をできたのは、先生方のおかげだと思いました。

(矢吹俊介)

ダンス部

部活動としての「ダンス」は、多くの人には想像しにくいことかと思えます。そんな中私たちの活動に興味を持ってくださり、様々な地域のイベントに参加させてもらえる機会が増えました。イベントを通して私たちのダンスを見てくださった方々の笑顔と歓声を見聞きすることで、地域との関わりの大切さご理解、ご協力していただける人たちへの感謝をより実感することができました。また、ダンスには踊る人によって個性が色濃く出てきま

す。その中で、全員で揃えなければならなかったりします。自分の個性を主張し、時には周囲と調和する。それがダンスのおもしろさであり、私たちが三年間で学んだことです。

私たちダンス部はたくさんの方々の支えがあつて活動することができました。そのことに感謝と誇りを持って「有意義な三年間だった。」と、言いたいと思います。(齋藤晃希)

合唱部

私が部活を通して学んだことは見守り、見守られることの大切さです。

私達合唱団は三年生が四人ということもあり例年に比べ少人数の合唱団でした。しかし、学年の壁を越えて互いに支え合いながら「温かくて幸せを感じる音楽を届ける」をモットーに日々練習に励んできました。今年九月に行われた県大会では金賞、先月に行われた東北大会では銀賞を受賞しました。目標としていた全国大会出場の夢は叶いませんでしたが、ハーモニーをつくりあげる過程での葛藤の中で声や気持ちさがそろった時の楽しさ、共に歌いその喜びを共感できる仲間の大切さを学ぶことができました。

科学部

三年生四人で後輩達を見守るべく努力してきましたが、今こうして考えると私たちも先輩方にこのように見守られていたのだと改めて気づかされました。(小川結帆)

私達は、伝統として受け継がれてきた水質調査をこれまでの化学物質の計測に加え、福島大学教授のアドバイスから、長期的な河川の水質の評価に適した水生生物の定量的採集を、新たに実施しました。

また、私達の代から、科学の甲子園の大会に参加し始めました。科学の甲子園には、筆記競技、総合競技、実験競技があり、すべての種目でチーム内でお互いに協力することができるといえるものです。

これらで学んだことは、協力することの大切さです。科学の甲子園は各種目の内容が難しく、時間内で対処するには、部員との連携が必須であり、一人ではできないことが多くあることが分かりました。また、自分のことだけを考えるのではなく、部員全員に意識を向けなければ、協力することは成り立たないと実感しました。(白田晃輝)

書道部

私が部活動を通して学んだこと、教えられたことは、新しいことに挑戦することの大切さです。

私は、高校での部活動は何かやったことのないものをやりたかったので、書道部に入学しました。入部当初は、全く書けず嫌になった時期もありましたが、先生や先輩、友達に教えてもらいながら日々練習し、少しずつ上達することができました。書道が始めてよかったことは、書道が上達したことだけでなく、いろいろな経験ができたことです。書道部に入学しなければ出会えなかった友達と仲良くなったり、合宿を通して他校生と交流するなど書道部に入学したからこその経験がたくさんあります。私はこれからこれらの経験を活かして、新しいことにたくさん挑戦していきたいと思えます。(鏡 千夏)

美術部

僕は、美術部に入学して絵を描く楽しさを実感しました。一年生の時は、公開文化祭のポスターを描いたり、六月、十月にある展覧会に向けてキャンパスを一から作り、慣れない油絵で試行錯誤しながら作品を制作し

演劇部

たりしました。自分の頑張りが賞という形で返ってきた時はとても嬉しく次の制作への大きな糧となりました。二年生では、CMコンテストや植樹祭のポスター、美術館でのワークショップなど普段の制作では得られない考えや表現をたくさん学び、自分の作品に活かしていくことができました。美術部の互いに刺激し合い切磋琢磨しながら良い作品を作りあげていく環境は、僕の創作意欲を高め、表現の幅を広げてくれました。制作は個人作業ですが、これからは部員一丸となって素晴らしい作品作りを目指してほしいと思います。(熊田敏秀)

私が演劇の活動の中で一番印象に残っているのは、初めて立った舞台でした。演劇に憧れて入学した部活。初舞台では緊張して台詞を忘れてしまったりと、声が小さくなってしまった。しかし、それ以上にとっても楽しかったです。先輩方が卒業し、我が部も四人になってしまいました。やりたいことも思うようにできず、この時期が一番大変でした。仲間が居てくれる嬉しさ、助け合

い、励まし合う心、時にはおつかり合うこともありましたが、同時に、言葉では言い尽くせない大切なことをたくさん学ぶことができました。

舞台は一人だけでも、役者だけでも成立しません。裏方や顧問、会場のスタッフ、観客等大勢の人の上で成立します。人生は舞台、人は皆役者だという言葉があります。自分の人生を傑作だと呼べるよう、感謝を忘れず頑張ります。(石川愛翔)

吹奏楽部

福島東高校吹奏楽部には、ここにしかない伝統と音楽があります。そして、それは歴代の先輩方と顧問の先生方によって築かれてきた、かけがえのないものです。このことは、日常の部活動や様々な行事を通して、実感してきました。定期演奏会が最も良い例の一つとして挙げられます。

我が校の吹奏楽部の定期演奏会は来年で三十五回目を迎えます。(これを記念して、OB・OGステージが設けられます。ぜひ、おいでください。)定期演奏会は先生方の助言を頂きながらも、そのほとんどの準備を生徒たちが担います。この準備はどれもハードなものです。先輩

方から受け継いできた伝統を基に部員同士で協力し合い、乗り越えていくことができました。

先輩方を始め、先生方、保護者の皆様のご指導、ご支援に感謝申し上げます。(梶田菜月)

写真部

今年度、写真部に三年生はいませんでした。進級していきなり部長を顧問から任せられ、自分なりに努めたつもりです。来年度も代替わりするまで部長を務めます。交代するときに悔いが残らないよう、日頃の撮影活動や部の運営に力を尽くしたいと思います。(菅野 颯)

英語部

私は、三年間英語部で英語でのコミュニケーションや他国の文化等を学びました。

普段の活動では最近あった出来事を英語で発表し合い、自分の言いたいことをどんな英語を使えば相手に伝わるか考える力がついたと思います。ALTの先生から「こうした表現を使ったらほうが伝わるよ」とアドバイスをもらったりして勉強になりました。毎年五・六月には白河市のプリティッシュヒルズへ研修旅行へ行き、全て英語で料理

や物づくり等のワークショップで学び、生きた英語を体験することができました。施設内は中世イギリスをイメージして作られていてインテリアまで本格的でリアルな英国文化も学ぶことができました。

三年間学んできた英語での表現や文化を今後を生かしていきたいと思っています。(神田夏未)

放送委員会

私は、放送委員会での活動を通して、番組を作る事の楽しさに気付きました。入った当初はあまり興味が無かった「放送」の世界。しかし、数々の大会に出場するにつれて、その面白さと奥深さに気付く事ができました。三年生の先輩方が連れて行って下さった全国大会。堂々と発表をする先輩に憧れ、私もいつか全国に行きたいと強く思ったのを覚えています。結果的に私も三年生で全国大会に出場する事ができ、本当に嬉しかったです。また、この三年間の活動を通して、何かに一生懸命打ち込む事の素晴らしさ、同じ目標を持つ仲間の大切さを学ぶ事ができたと思います。

委員会を通して得た考えや思いは、私の将来にも強く影響する程大切なものです。この三年

間で得た様々な事を忘れず、これからの自分の人生が豊かな物になるよう生かしていきたいと思っています。(松本柊子)

応援委員会

私が応援団の活動を通して学んだことは、たくさんの人と関わることの大切さです。

応援は、団員だけがやっているのでは意味はありません。野球部、プラバン、そして保護者の方々と一つになって初めて応援が成り立ちます。私は特に保護者さんとの関係を大事にしており、三年になった時、東の応援の特徴である「水かぶり」を団員と共にしてもらったことがとても印象に残っています。他にも野球部員やマネージャー、それに校長先生までもが水をかぶりました。このように応援団だけがやっていたことをいろんな人にしてもらえるようになったことが本当に嬉しかったです。

私は応援する立場でありながら、団員や先生、その他のたくさんの方々に励まされてきました。応援の大きさも楽しさも厳しさも知りました。この応援団として活動できて本当に良かったです。(柴田 南)

平成29年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生	氏名	実習教科	期生
小林 優	生物	32期	紺野 由夏	生物	32期
小野 雄斗	数学	31期	藤原 雄大	保健体育	32期
小関 晴也	化学	31期	紺野 晏利	英語	32期
佐藤 大輔	保健体育	32期	福 富 亮	世界史	32期
狩野 遼河	物理	31期	阿部 紗良沙	保健	32期
加藤 柚香	日本史	32期	菅野 克翔	生物	32期
柴田 光宏	日本史	32期			



福島東高校の卒業生から学ぶ

「大きな一歩」

日本ボッチャ協会
村上光輝(十一期生)



「大きな一歩。」この言葉は私がヘッドコーチとして参加した、リオパラリンピックボッチャ競技で銀メダル獲得後、杉村選手の言葉です。

ボッチャはパラリンピック種目で、誰でも簡単に取り組むことのできる戦略型のスポーツです。障がい者のスポーツであったため一般に知られていませんが、リオでの選手の活躍により、注目を集めることとなりました。パラリンピックはオリンピック後に行われるので、生活環境や競技場の情報を事前に知ることができました。環境に合わせて食事の準備や、選手自身や、選手の手足となる競技用具のコンディショニング、万全の準備をしましたが、競技場が冷房により室温が低く、乾燥していて、



良い競技環境とは言えませんでした。そのような中、銀メダルを獲得できたのは、選手がコーチやサポートスタッフに、最高のパフォーマンスを出すことができる状況を的確に伝え、自信をもってプレーできたからです。

コーチは全員、ボッチャの競技経験はありません。客観的に考えることができますが、そこにコーチとして思いが入り過ぎると、成績が上がらないことが多くあります。ボッチャを通して学んだことは、「選手のこととは選手が一番知っている」ということです。



私は東高時代サッカー部に在籍していました。その時もチームとして、選手、サポートメンバー、部員全員が同じ目標に向かってコミュニケーションをとる、スポーツの楽しさを学びました。

冒頭のキャプテン杉村選手の言葉は。パラリンピックという大舞台で銀メダルを獲得した選手が「大きな一歩。」と発言したことに意味があります。

メダル獲得でボッチャは有名になりましたが、競技の面白さは伝わっていません。選手のごさは伝わっていません。私は杉村選手の言葉から「国民的なスポーツとしての金メダルの獲得」という新しい目標を設定しました。

この目標を選手の思いを含め形にしていきたいと思えます。

転任者の言葉

学び舎の窓

〜東高に着任して

国語科 澤田 美喜

東高の周辺には学校が実に多く、福島の一大カルチャータウンであるのだと思いつながら車を走らせ、着任の朝、学校の正門を入ると、何故か大きな神社の鳥居をくぐった時と同じような神聖な気持ちがありました。気のいいところなのだ感じました。

職員玄関にはトップライトが切られ、続いて通された図書室は二面採光で遮るものがなく、光が存分に入ってきて来ます。北校舎と南校舎を繋ぐアトリウムは体育館につながり、途中には螺旋階段も。続くベランダもアーチ型に張り出している。県立高校には珍しい構造であり、意匠だと感動しました。

また、アトリウムから見える中庭はさっぱりと整えられており、花壇の花を愛でながら、ベンチでおしゃべりする女子生徒がイメージされ、創立当初から男子校の設定で始まったのだからかと思ってしまうほどです。そして、新装なった北校舎の廊下の窓は床まで届いて見晴らしよく(高い位置に窓が切つてある学校が多いと思うのです

が)、空を近く感じて、流れる雲、そびえ立つ市庁舎、遠く山の稜線：心惹かれて度々目を遣ってしまいます。

日本の学び舎は、欧米のそれほど思想がないと言われる。

学校というところ、その人的環境やカリキュラムなどに目が行きがちですが(例えば、人間がどちらかと言うと精神性が重んじられるように)、しかし、物理的なことも重要だと私は考えています。建物には人の情緒を涵養する側面さえるのでは、と思うからです。東高の校舎は、創立当時の教育界のみならず、行政も含めて、並々ならぬ想いがあつたことを伺わせるものではないでしょうか。

人間は時空間に規定されず。人類が誕生してからの長い歴史のなかで、人生のひとときを同じ学び舎で過ごす。それがどれほどの確率かと考えると、奇しきご縁と言つていいのかもしれない。

「同窓」：同じ窓。一期生が校舎の窓から見た風景と、ただ今の在校生が見ている風景は、きっとどこか重なり合う。時は移り人が変わっても、学び舎は変わらずここにあり。そう考えると、このような校舎で学ぶことができることは一つの幸せと思われれます。

編集後記

今回の福島東高校同窓会会報第十四号発行にあたり、同窓会会長様をはじめ皆様方にはご多用のところ、原稿や資料を御寄稿頂き厚く御礼申し上げます。

今年度は全国高等学校総合体育大会「はばたけ世界へ 南東北総体二〇一七」(全国インターハイ)が七月下旬から八月月上旬にかけて南東北三県(山形県、宮城県、福島県)で行われ、本県では一〇競技種目が開催されました。どの部も地元開催のインターハイ出場を目指し練習に励んできましたが、本校からは弓道部とテニス部が出場し(各部の報告は全国大会出場報告に記載)、全国の舞台で活躍しまし

た。

地元で開催される全国インターハイのため、多くの教員・生徒が競技役員、運営役員、競技補助役員、運営補助役員として大会に携わりました。私が携わったバスケットボール競技では本校のバスケットボール部員も競技補助役員として参加しました。部員達はテーパーオフイシャル、コートキーパーという試合に関わるミスの許されない業務を行いました。大会序盤から一点を争う緊迫したゲームが多く、準決勝では歴史に残るような第四延長までもつれたゲームがあるなど、大観衆のなかでこれまで感じたことのない緊張感だったと思います。全国高体連役員の方や競技役員の方

方から賞賛の言葉を頂くほど立派に役割を果たしてくれました。試合後の部員達の表情は、緊張から解放された安堵感、役割をやり遂げた充実感・達成感で、学校生活では見たことがないくらいとてもいい表情をしていたのが印象的でした。

全国インターハイの選手の緊張感、選手を後押しする応援生徒の必死さ、保護者の手厚い支援など、自分たちがこれまで味わったことのない雰囲気を感じることが出来たり、試合に懸ける熱い思いを感じたこと、目にしたこと、そしてその全国インターハイを補助役員として支えたこと、は彼らにとって、高校生として、人として、人生において大きな経験となったと思います。

平成29年度 転出者

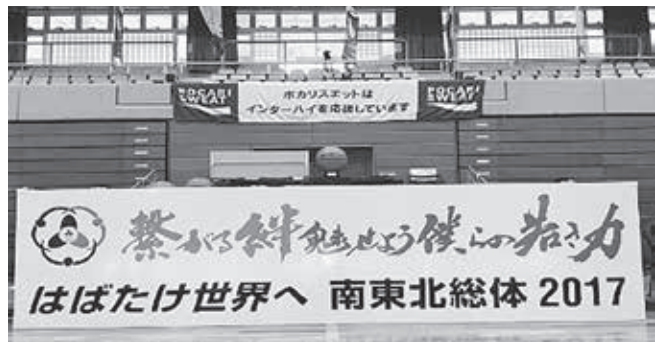
職名	氏名	転出先
教諭	穴戸路枝	退職
教諭	日下淑子	福島商業高
教諭	星 岳郎	福島工業高
教諭	クームズ茂子	教育センター
常勤講師	佐久間優介	退職(原町高へ 教諭)
常勤講師	宗像佑磨	退職(福島高へ)
常勤講師	中村由紀子	退職(継続)
月手当非常勤講師	渡部 亜耶	退職(継続)
時間講師	菅野智晶	退職(継続)
主査	柳 沼文枝	いわき地方振興局主査
PTA雇用職員	稲垣 順子	退職

平成29年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
教諭	澤田美喜	白河高	国語
教諭	渡邊一広	安達高	数学
教諭	根本美穂子	郡山東高	公民
教諭	鈴木隆史	会津高	理科
教諭	阿部祐太郎	新採用	書道・国語
常勤講師	小野隆道	安積高	英語
常勤講師	中村由紀子	継続	数学・情報
月手当非常勤講師	渡部 亜耶	継続	英語
月手当非常勤講師	菅野智晶	継続	数学
主事	平野美貴		新採用
非常勤業務員	菅野秀之		新採用
臨時事務補助員	齋藤三恵子		新採用
PTA雇用職員	高橋 真央		新採用

在校生の皆さん、次は自分たちの番です。進路目標の達成、部活動の目標達成にむけて、この夏インターハイを通して学んだ、最後まであきらめずに目標に向かって必死に立ち向かうこと、そしてそれを支えてくれる多くの人がいることを忘れずに頑張りましょう。やり遂げた者にしか味わえない喜び、達成感、充実感を得ることが出来るように一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。

最後になりましたが、今年度は同窓会総会が平成三十年二月十日(土)ウエディングエルティで行われます。職場、同期などでお声がけのうえ、多くの



同窓生の皆様のご出席をお待ちしております。

同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動にご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(十二期生 菅野 真幸)

同窓生へのお願い

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は 024-531-1551 です。